



こんにちは♪

民主苦小牧号外  
2026年  
4.12  
No.1136



日本共産党市議会議員  
**小野寺ゆきえ**です!

## 四十九日法要を終え、平和を想う

先日、父の四十九日の法要を終え、母が眠る納骨堂に父のお骨を納めてきました。お坊さんのお話しでは、故人が極楽浄土に旅立つ時は、自分自身が一番健康で幸せだった時の姿で旅立つのだそうです。それはいつなのでしょう。私が子どもの頃、どこに行くのも私を連れて歩いてくれた、あの頃だったらいいな～と思います。

葬儀屋さんが我が家に準備してくれた祭壇を片付けると、49日前に戻っただけなのに、違う部屋になったように感じます。これが日常なのに、不思議ですね。

祭壇には、毎日朝食（パンやサンドイッチの時もあります）とコーヒーをあげ、夕方には夕食をあげて、線香を付けて、チ～ンと素敵な音色の「りん」を鳴らします。葬儀屋さん自慢の「りん」だそうです。父の食事の準備は全て夫がやってくれました。有り難いです。四十九の前日は、父が好きだったうま煮と豚汁も作ってくれました。残り

は、法要に集まった子ども達の胃袋の中に。

大きな一区切りができ、ホッとしている一方、寂しさが入り混じった感覚です。9年前に亡くなった母の遺影の隣に父の遺影を置き、毎日話しかけたいと思います。

アメリカとイスラエルがイランを攻撃したのは、父が亡くなった後なので、父は知りません。知っていたら、きっとものすごく悲しむと思います。

父が終戦を迎えたのは8歳の時です。戦後の苦勞も経験した父は、とても平和を望む人でした。しかも、人と人との争いごとも、穏やかに話し合いをして解決する人です（私にはない素質です）。トランプ大統領の言動を知ったら、なおさら心を痛めたと思います。

でも、アメリカでは3300ヶ所で800万人が、トランプ大統領を批判する史上最大のデモが起っています。アメリカに拠点を置く国際法律家の100人以上が「戦争犯罪に該当し得うる」「国連憲章に明確に違反する」と指摘しました。NATOとの亀裂も深まり、トランプ大統領は支持を失い、孤立しています。

日本でも、国会前に若者を中心とする多くの人が集まり、「高市総理は憲法守れ」「戦争反対」と声を上げ、その運動が全国に広がっています。私は父に伝えたいと思います。「大丈夫だよ。日本でも、世界でも、大きな希望があるよ。私も頑張るから安心して」と。